

月刊 社会保険 2

2019 VOL.823

一般社団法人
全国社会保険協会連合会

ごあいさつ 日本年金機構理事長 みずしま どういちろう 水島 藤一郎

新年を迎えて 全国健康保険協会理事長 あんどう 伸樹 安藤 伸樹

協会けんぽからのお知らせ

平成31年度における任意継続被保険者の標準報酬月額の上限について

加入者の皆様へ 平成31年1月よりはり、きゅう及びマッサージの施術を受ける際の療養費の支払いについて
支払い方法を変更いたしました。

2019年度介護報酬改定に関する審議報告

平成31年度厚生労働省予算案のポイント

平成30年度厚生労働省第2次補正予算(案)の概要

診療報酬・介護報酬改定について

「いのちをまもり、医療をまもる」国民プロジェクト宣言!

ごあいさつ	日本年金機構理事長 <small>みずしま とういちろう</small> 水島 藤一郎	4
新年を迎えて	全国健康保険協会理事長 <small>あんどう のぶき</small> 安藤 伸樹	5
協会けんぽからのお知らせ		
平成31年度における任意継続被保険者の標準報酬月額の上限について		6
加入者の皆様へ 平成31年1月よりはり、きゅう及びマッサージの施術を受ける際の療養費の支払いについて支払い方法を変更いたしました。		7
2019年度介護報酬改定に関する審議報告		8
平成31年度厚生労働省予算案のポイント		10
平成30年度厚生労働省第2次補正予算(案)の概要 診療報酬・介護報酬改定について		14
「いのちをまもり、医療をまもる」国民プロジェクト宣言!		15
年金・健康保険委員活動報告 年金委員になり20年で思うこと	株式会社青木屋取締役副社長 <small>おおぐし いくこ</small> 大串 郁子	18
書評 オーナ・ハサウェイ/スコット・シャピーロ著、船橋 洋一 <small>ふなばし よういち</small> 解説・野中 香方子 <small>のなか きょうこ</small> 訳『逆転の大戦争史』		20
サステイナブル 持続可能な社会の扉を開けた人たち		
第4回(後編) 共生社会の一翼を担う協働事業。そこに企業の先見性がある。	元厚生労働事務次官 <small>むらぎ あつこ</small> 村木 厚子 株式会社朝日エル会長 <small>おかやま けいこ</small> 岡山 慶子	21
自分が変われば会社も変わる!? ビジネスチャンスを広げる行動変容		
第10回 社会的促進と集団凝集性 <small>きようじゅうせつ</small>	埼玉学園大学教授 <small>ふるさわ てるゆき</small> 古澤 照幸	24
さまざまな視点から考える認知症 第10回 「認知症が気になりだしたら、歯科にも行こう」は、なぜ!?	一認知症の人の暮らしと命を守る医科歯科連携の視点— NPO法人ハート・リング運動専務理事 <small>はやた まさみ</small> 早田 雅美	26
認知症を予防する 第10回 認知機能を維持するために	お茶の水健康長寿クリニック院長 <small>しろさわ たくじ</small> 白澤 卓二	28
社会保険Q&Aシリーズ 健康保険編 30/年金保険編 32/介護保険編 34/労働保険編 36	特定社会保険労務士 <small>すずき ひろみ</small> 鈴木 ひろみ	

表紙写真・竹内敏信/イラストレーション・水森亜土、/デザイン・STデザイン、(有)フェイム/編集協力・(株)アップルハウス/印刷・(株)エイエヌオフセット

表紙のこぼれ —— 竹内敏信 「光の響」「樹の風景」

青森県岩木町



今年の冬はまさに異常といえる。12月に夏日なんて聞いたことがない。従来であれば、日本の四季ははっきりと変わり、夏は暑く、冬は寒いが当たり前であった。それが近年崩れはじめている。これは長年かけて、公害により人々が犯した罪の形なのだろう。

自然の神は、怒っているのである。この写真のような風景は、いずれ見られなくなるかもしれない。冬独特の光。

テーマを「樹の風景」として私の作品をお見せしている。樹自身だけを見ても美しい。しかし、少し下を見てみると、こうして美しい影がある。影だけでも樹を感じることができる。この風景を大切に残していきたいのである。

◎ 本誌制作にあたっては、国等からの補助金等を一切受けておりません。

年金委員になり20年で思うこと



株式会社青木屋取締役副社長
おおくし いくこ
大串 郁子

●地域の紹介
私の勤務する「青木屋」は、東京都府中市にあります。府中の紹介をします。府中とは、「国府所在地」を意味する地名で「武蔵国の国府」が置かれた地で、新宿から電車で20分の位置にあります。

市内の至るところで旧石器時代の尖頭器、縄文式時代の土偶古墳群や「国衙」の遺跡も大國魂神社の東隣で発見されました。江戸時代には、甲州街道、鎌倉街道との交差点周辺を中心とした宿場町として栄え、今では5月に大國魂神社で「くらやみ祭り」が古式ゆかしく伝統に則り行われ、大太鼓の音とともに幻想的な風景が展開されます。

日本唯一の国指定天然記念物である「馬場大門ケヤキ並木」の大本が立ち並ぶ緑豊かな通りがあり、市の南側には多摩川が流れ、サイクリングコースが併設され多くの人々に親しまれています。そのような環境のよさが、「住みやすい街」の上位にランクし、人口も増加し、小学校の教室が足りなくなり、プレハブ校舎で当分の間、間に合わせる現象も起きています。

穏やかな歴史の街府中ですが、旧東村があり、過去には米軍基地として使われていました。

府中といえは多くの方々がいふけるのは、東京競馬場と3億円強奪事件ではないでしょうか。東京競馬場は、1933年に目黒区

から移転し、日本ダービー開催時には10万人を超える来場者で賑わいます。3億円強奪事件は、発生から昨年で50年が経ち再度話題になりましたが、今後も未解決事件として語り継がれていくのではないのでしょうか。

近年はスポーツの街としての顔もあり、近隣に東京スタジアムがあり、サッカー、フットサルが盛んで、ラグビーでも東芝ブレイブルーパス、サントリーサンゴライアスの練習グラウンドがあり、日本代表リーチ・マイケル氏が自転車に乗っているのを見かけたりします。

2019年9月開催のラグビーワールドカップでは、フランス、イングランドチームのキャンプ地になっていました。

2020年東京オリンピックでは、ロードレース種目で大國魂神社の参道を走ることが決定し、歴史ある緑豊かな街に世界中の人々が訪れることになりました。日本の伝統文化を府中で触れたいと思います。

●青木屋の紹介

弊社は、1893(明治26)年創業、今年126年を迎える和菓子屋です。大國魂神社の境内でお菓子を販売したのがはじまりで、今なお神社に関連した名前のお菓子を多数販売しています。

現在7代目の社長が会社を切り盛りしていますが、青木屋発展の基礎を築

売50年を迎える2017年にモンドセレクションに出品し、金賞をいただきました。2018年も金賞を受賞しましたので、今年3年連続金賞を目指して改良を重ねています。

あまり知られていませんが、和菓子づくりには大量の水を使います。水で餡子の味が変わります。余談ですが、当社の近くにサントリーの府中工場があり、秩父山系の同じ水を使っています。餡は和菓子命であり、「百年製餡」



と命名し、自家製餡に頑固にこだわり、技を磨きつづけています。昨年11月に従来にはない彩り豊かで味もそれぞれ異なる5色の羊羹を「モダン羊羹」と銘打って発売しました。伝統を守りながら、新しいことに挑戦し、最高品質のお菓子づくりを目指し、お菓子は日本の伝統文化を伝え、人の一生と深く関わり、寄り添っていくもの、どこに刻み、人と人との縁を広げていけるように、これからも挑戦していきます。

●委員活動

青木屋に入社した1998年に社会保険委員になりました。

初めて委員会に参加したときは、東芝など各企業の委員でホテルの1室が一杯になりました。現在は上場企業の社会保険関係が本社一括適用となり、委員数が大幅に減少しました。

社会保険事務所が年金事務所になり、府中年金委員会には、調布・狛江・稲城・多摩・府中の地域が所属しています。現在職域の委員数は124名で、地域の委員は10名と聞いています。年金委員会はこのままでは年金委員の減少とともに、会としての役割が果たせなくなるのではと危惧しています。

研修会を年2回年金事務所で開催し、1日に2回、各回30名参加していただいています。以前より研修会への参加人数は増加しているように思いますが、従来とは異なってきた今、年金委員会の役割を考え、あり方を検討すべき

ではと考えます。私自身が会長を仰せつかって8年になりますが、なんの役割も果たせなかったらどうかと反省しています。

年金委員に求めることは、職場での年金に対しての周知・啓発活動だと考えますが、年金委員会に求められる役割は、年金事務所への訪問者の多さを見るときに考える必要があるのではないかと思います。

●最近思うこと

最近、「働き方改革」が提唱されています。

高齢化と少子化が現実のものとなり、国の提唱は税収を増やすことが大きな目的と考えますが、企業にとっては働く人がいないというのは企業の存続が危ぶまれる事態で大きな問題です。

出産や子どもが小さいために仕事を離れたキャリアのある女性や、定年退職した知識・経験豊かな人が多く埋もれているのではないかと思いますので、採用を大いにやるべきだと思います。このような方々の採用を促進するような政策や方法を考えて、実行してほしいと思います。

また、以前あった「インターシップ制度」は、是非復活してほしい制度です。この制度は、一定期間(この期間の賃金は国の負担)働いて、労働者と企業双方が合意したら雇用するもので、当社はこの制度で有能な人を採用しました。



青木屋菓子まつり

いた3代目社長加藤次郎の「いいものを創れ、恥ずかしくないものを世に出せ」の教え、思いを引き継ぎ、「鮮度・素材・武蔵野・季節・歳時記」の5つの事柄を青木屋の価値を築く源泉とし、「喜びを創ろう」と努力しています。

その喜びを届けるために、毎年3月には「ありがとうの日」を設け、東日本震災復興応援に「どら焼き」の売上げの一部を日本赤十字社に寄付させていただいています。また、高齢者施設への出張販売を行うとともに、毎年2回地域の方々へ日頃の感謝を込めて青木屋菓子祭りを開催しています。特別限定商品の販売や取引先の企業にも参加いただき、お茶の入れ方講習会、お花のアレンジメント講習会等を行い、地域の方々や青木屋をつなぐ大事なイベントとなっています。

青木屋といえは「武蔵野日誌」といっていただくとお菓子がありますが、発



府中けやき並木通り店

一方で親の介護で離職せざるを得ない人も増えています。待機児童減少対策、介護に関する支援、またどの企業も直面している103万円、130万円の壁問題等、1日も早く解決していただきたいと思っています。

求職者も年齢制限がないからといって、まったく経験のない職種にもかかわらず65歳以上で採用を希望する場合には、仕事量に見合った賃金があると考えるのは難しいと思います。今まで培った知識や経験をできるだけ活かせる仕事でないとい体力的にも適応力にも無理が生じやすいです。限られた人材の中、働きたい人と働いてほしい企業のマッチングが上手にいくように国も企業も大いに工夫と努力が必要だと思います。

(府中年金委員会会長)